

目次

— 図書館の基本を求めて	X
『風』『談論風発』2017	—
— 2019より	—
—	—

五年目に入った武雄市図書館	1
集まって雑談するー風通しのよい図書館談義を	6
話題の図書館について、評価の違い	12
著作者と図書館について、くりかえされる発言	18
情報公開とカタカナ語と「改革」と	24
書店と図書館の棚づくりの違い	30
カウンター業務と職員の専門性	36
岡山市立図書館とエスぺラント関連資料	42
デパ地下試食販売員のプロ意識ー図書館では……	48
一年が過ぎた高梁市図書館	54
高校生の自習勉強と「資料提供」の空洞化	60
ちいさな本屋さん図書館	75
理想の県立図書館を求めて	81
美しいすばらしい図書館とプレハブの図書館	87
山中湖情報創造館の現在	93
行政が優先しなければならぬこと	99
昔の記憶の中の読書	105

なぜ、そんなに忙しいのか	111
貸出の減少、言いわけの図書館論議	117
貸出の減少と経費の推移	123
統計をめぐる騒動 図書館も他人事ではない	129
マスコミの図書館報道を検証する	135
『出版ニュース』への投稿をふりかえる	150
公共図書館プロジェクト答申と図書館のあり方	156
距離的にも、心理的にも、身近な図書館を	162
貧しかったころの図書館の事例から	165
「図書館のにぎわい」の実状はさまざま	171
前川恒雄氏への感謝	177
あとがき	183
『図書館の基本を求めて』 VI ～ X	190
『図書館の基本を求めて』 VI ～ X 収録タイトル一覧	195

五年目に入った武雄市図書館

二〇一七年五月一八日の佐賀新聞に武雄市図書館の二〇一六年度の利用状況が報道されている。改修前の二〇一一年度と、改修後の二〇一三年度から二〇一六年度までの、来館者数、貸出点数、貸出利用者数の表が出ている（二〇一二年度は改修工事で五か月間休館）。表1ではこれを千の位にして書き換えた。貸出人数と登録者数の市内・市外等の比率も出ているが、うち登録者数は略した。

なお、新聞で「図書貸出数」と記されているのは雑誌やAV資料を含む数値なので本稿では「貸出点数」とした。この貸出点数の新聞報道の数値には二〇一五年度と二〇一六年度だけ、団体貸出の数字が含まれている。本稿の表では他の年度に合わせて個人貸出数に訂正した。それにより、二〇一一年度に対する二〇一六年度の貸出点数の比率は、新聞では一・二五倍とされているが、実際には一・

表1 武雄市図書館の利用状況

年度	来館者数(千)	貸出(千)		貸出人数の比率(%)		
		点数	人数	市内	市外	県外
2011	256	340	83	79.1	20.5	0.3
2013	923	545	168	56.5	32.1	11.4
2014	801	480	154	54.8	32.0	13.2
2015	728	444	150	55.0	31.7	13.3
2016	689	417	140	54.8	32.5	12.6

二・三倍である。なぜ両年度だけ団体貸出を加えて発表したのか、理由はわからない。なお旧館時代で貸出点数が最大の二〇〇九年度と比べると、二〇一六年度は一・一三倍にすぎない。

二〇一六年度の来館者数は二〇一一年度比で二・六九倍である。すでに以前から何度も指摘してきたが、改修後の来館者数は、商業スペースと、歴史資料館の展示やイベントの部屋も含む、建物全体への来館者数であり、二〇一一年度以前の来館者数は図書館開架スペースに限られていたから、比較の仕方が不適切である。

むしろ注目したいのは、来館者数に対する貸出人数の比率で、二〇一六年度は二〇%にすぎない。来館者の八〇%は、本を借りていない。ふつうの図書館ではありえない数字で、スターバックスや蔦屋書店だけを目的に来館して、「図書館」や「図書館資料」には関心を持たない人がいかに多いかわかる。

図1のグラフは二〇〇六年度から二〇一六年度までの年間貸出点数の推移である。二〇一三年度は二〇一一年度比で一・六倍だったがその後、急激に下がっている。改修に四億五千万円の税金を費やし、三

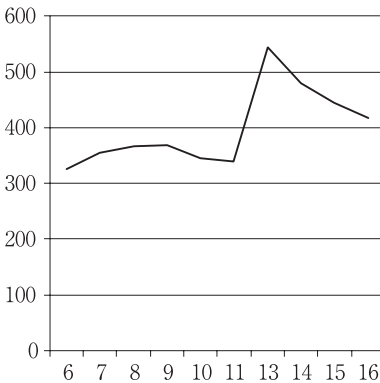


図1 2006~2016年度までの年間貸出点数の推移 (単位:千点)

六五日一日一二時間開館で開館時間は一・八倍に増加したのに、とうてい割が合わない。二〇一六年度一日当たりの貸出点数では二〇一一年度とほぼ同じ、一時間当たりでは三四%も減少して、サービスの密度がずいぶん薄くなっている。

貸出人数で貸出点数を割った貸出利用者一人当たりの貸出点数は、二〇一一年度は四・一だが、改修後は二〇一三年度が三・二四、二〇一六年度は二・九八まで下がっている。一回に借りる点数が三点を下回るのは相当少ない。だんだん減少しているのは資料に魅力がないためか。貸出人数の市内比率により、武雄市民の貸出人数を出して、これに一人当たりの貸出点数を乗じると市民だけの貸出点数が推定できる。千点の単位で二〇一一年度は二六八、二〇一三年度以降は三〇七、二六三、二四五、二二八と減少している。つまり、武雄市民の貸出点数は改修後の二年目から二〇一一年度を下回り、その後さらに減少しているのである。

指定管理料は二〇一三年度が一億一千万円、二〇一四年度からは消費税が八%になったため、一億一三・四万円となり、二〇一七年度にはあらたに隣接地にこども図書館が建設されて一〇月に開館予定で、半年分の指定管理料三〇一七万円がプラスされて一億四三三・二万円に増加した。こども図書館は現在の図書館との「一体性と相乗効果を考えて」CCCに指定管理されることになっている。

図書館費全体では改修前の二〇一一年度が約一億二千万、改修後の二〇一三年度は約一億五千